

令和元年度境港市介護保険運営協議会（第1回） 会議録

■ 日 時：令和元年5月20日（月）午後1時50分～午後2時48分

■ 場 所：境港市役所 保健相談センター 研修室

■ 日 程

1 開 会

2 報告事項

（1）地域密着型サービス事業所の指定について

（2）地域包括支援センターの運営状況について

（3）介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について

（4）（認知症初期集中支援チーム検討委員会）

認知症初期集中支援チーム活動報告について

（5）介護医療院への転換について

4 その他

5 閉 会

■ 出席者（敬称略）

（委員）足田 京子、阿部 暁子、稲賀 潔、來間 美帆、遠藤 勲、高木 敏行、
佐々木 憲子、松本 幸永、山本 英輔

（事務局）

佐々木 真美子（福祉保健部長）、坂田 卓宏（長寿社会課長）

竹内 真理子（地域包括支援センター所長）

井上 千恵（同介護保険係長）、吉岡 賢次朗（長寿社会課高齢者福祉係長）

（欠 席） 荒井 祐二

（傍聴者） なし

■ 会議録（要旨）

1 開会（坂田長寿社会課長）（13:50）

運営協議会の運営について

【事務局】 本日は荒井委員が欠席のため9名の出席があり、設置要綱第6条第2項の規定により委員の過半数の出席があるので、この会議が成立していることを報告する。

会長あいさつ

2 報告事項

【会 長】 日程3の報告事項に移る。

（1）「地域密着型サービス事業所の指定について」事務局から説明を。

【事務局】 平成30年度中にデイサービスセンターとのえの家、認知症対応型デイサービスセンターさかい幸朋苑、定期巡回・随時対応型訪問介護看護さかい幸朋苑の3事業所が指定の更新時期を迎えた。これらの事業所の利用状況はそれぞれの登録者の状況に記載してある。義務付けられている運営推進会議も既定の回数開催されており、地域との連携も図られている。

また、各事業所から申請のあった書類を審査した結果適正であったため、それぞれの指定有効期間から6年間の指定更新をしている。

【会 長】ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】（意見等なし。）

【会 長】「(2) 地域包括支援センターの運営状況について」事務局から説明を。

【事務局】（資料1 ページ）設置状況について。直営一本化となり、2法人から表のような職種に出向して頂いており、相談件数の増加から前回の本協議会でも報告したとおり、平成31年1月から1人増員をし、現在16人体制で運営している。

次に活動実績について（資料2 ページ）相談・支援件数及び内容を報告する。地域包括支援センターの総合相談の件数である。指定介護予防支援はケアマネジャーとしての関わりとなる。それぞれ実人数を平成29年度、30年度と比較しているのでご覧ください。いずれも、前年度比1割から2割弱、増加している。表1は、要支援1、2のケアプラン件数を月別に表している。平成30年度に入り、前半でケアマネ1人分の担当に相当する35件の増加であったため、平成31年1月から1人の増員をしている。表2でみると、前年度比では2割増えているが、10月以降は470~480件で推移している。相談件数が増えたのは、包括が市役所に設置となり、皆様が相談しやすく、早めの相談、また必要な方への介護保険利用ができ、悪くなるのを予防できたのではないかと考えている。また、2年半がたち少し落ち着きつつあると思っている。

（資料3 ページ）②相談支援内容は、総合相談としての内訳である。引き続き総合的な相談窓口として、機能していきたいと思っている。

（資料4~9 ページ）続いて、2）運動機能向上事業についてである。平成30年度は、29年度に続いて「いきいき百歳体操」に健康寿命の延伸に向けた講話を取り入れ、残りの3公民館で、4回の教室として実施した。教室後は地域の中で自主サークルとして実施されており、フォローとして時々回らせていただいている。平成30年度末では、42会場、約600人以上の方が実施されている。今年度に入っても、次々と増えている。

（資料10~16 ページ）(3) 認知症予防事業では、91回延べ2144人の参加を頂いている。これは、各地区で活動されている認知症予防サークルの後方支援や全サークルでの学習交流会であり、小学生への高齢疑似体験や認知症サポーター養成講座及びサークルとの交流会などを実施している。

また、住民へ向けた、サポーター養成講座として毎年文化ホールで「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり市民大会、講演会」を行い、認知症、またその予防に関する知識の普及啓発を行っている。

（資料17~19 ページ）(4) 口腔機能向上事業は、保健相談センターでの

口腔機能の健診を取り入れた講演会や低栄養予防の講演会、ふれあいの家や認知症予防サークルでの健康教室を行った。

(資料 20～21 ページ) (5) 認知症初期集中支援推進事業は平成 29 年度から実施している。①認知症初期集中支援チーム員会議では、早期診断、対応に向けた支援を検討、実施している。チーム員は包括の専門職と専門医として、済生会病院神経内科の栗木医師にご参加いただいている。12 回、12 件の検討をした。②認知症地域支援推進員による相談では、ふれあいの家や教室などに出かけ、相談を受けている。③「おれんじカフェさかいみなど」では認知症地域支援推進員が中心になり開催している。

(資料 22 ページ) (6、7) 健康教育、健康相談である。

(資料 23 ページ) (8) 家族介護教室では、「いきいき介護教室」として、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等についての知識や技術の取得を図ることを目的に行っている。今回は薬について薬剤師会へ依頼し、また、介護食の調理実習を栄養士会へ依頼し行った。多職種との連携も図りながら進めている。

(資料 24～25 ページ) (9) 元気シニア増やそうフレイル予防を平成 30 年度の中心事業としており、各事業を連動させながら進めている。初年度でありフレイル予防についての啓発講演会、フレイルサポーター養成講座、フレイルチェックを実施した。平成 30 年度は 33 人のサポーターが誕生した。トレーナーは地域包括支援センターの保健師 3 人である。

(資料 26 ページ) (10) 地域包括ケア推進事業では、事業所研修会、ケアマネ事例検討会、多職種連携研修会、地域ケア会議を開催した。

(資料 27 ページ) (11) 安否確認訪問の件数である。

【会 長】 ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】 包括ケア推進事業については、国が 2025 年を目途に推進しているものか。

【事務局】 国の示したものに沿って行っている。

【委 員】 3 ページの安否確認件数より 27 ページの安否確認訪問件数が多いのはなぜか。

【事務局】 3 ページは相談内容が安否確認に関するものだった件数、27 ページは定期の訪問件数である。

【委 員】 3 ページの相談内容がその他の件数が多いが、どのようなものか。

【事務局】 福祉、健康づくりなど多岐にわたる。

【委 員】 担当外の相談が多く手間になっていないか。

【事務局】 包括が窓口となって、各担当部署につないでいるため大丈夫である。

【委 員】 認知症カフェに参加した時に、高齢者向けサービスについて尋ねられ、包括支援センターを紹介したことがある。転入してこられた人にそのような情

報提供をしたらどうか。

【事務局】 転入時、介護保険担当窓口に手続きに来られるので、情報提供を行うようにしていきたい。

【会 長】 その他、ご意見、ご質問等はないか。

【委 員】 (意見等なし。)

「(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について」事務局から説明を。

【事務局】 総合事業の事業所の指定状況と平成30年度の実績である。平成30年度末現在の指定事業所の数は、訪問型、通所型共に18か所となっている。市内の事業所のうち、訪問型では「こころね訪問介護ステーション中野」、通所型では「レッツ倶楽部境港」が新たに指定を受けている。ただし、この2施設は、平成30年度においては、事業を開始していないので、実績には含まれていない。一番下の表、給付実績について、特に通所型サービスの平成29年度実績が前年と比較し増加しているのは、平成29年度途中で新規開設した2事業所が、利用者を伸ばしていることが大きな要因となっている。

【会 長】 ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】 (意見等なし。)

「(4) 認知症初期集中支援チーム活動報告について」事務局から説明を。

【事務局】 認知症初期集中支援チーム検討委員会にはいる。この委員会は「認知症初期集中支援チーム員会議」がどのような目標をもって業務に取り組み、どのような成果を得たか、あるいは課題が残っているかを明らかにしていくものである。

(資料1ページ) この会議は、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)で7つの柱の2番目「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供」の中に位置付いている。境港市の認知症施策では、普及啓発、予防、家族支援、などと合わせ、早期発見・対応に関することとして「認知症初期集中支援推進事業」として「チーム員会議」を行っている。第6期の高齢者福祉計画・介護保険事業計画の中で、平成29年度にチームを設置することを位置づけてあり、開催した。会議の内容は2. チーム員会議の内容①②③のとおりである。

(資料2ページ) 対象者は原則として40歳以上で、在宅で生活しており2ページ右上のいずれかの基準に該当する者であり、国からも示されている。記録は利用者基本情報、アセスメントツール、会議記録であり、その人をおって1か月、3か月、6か月とモニタリングを行い、その結果は全員をその対象月には会議で経過報告を行っている。

また、モニタリング表を作成し、継続、終結が分かるようにしている。

(資料4ページ) 資料1~3が具体的な様式である。

【会 長】 ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】 連携シートで情報もきちんと返していただきフォローも大変しやすい。
西部医師会にも手紙等で連絡してみるといいと思う。

【会 長】 その他ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】（意見等なし。）

「(5) 介護医療院への転換について」事務局から説明を。

【事務局】 済生会病院内にある介護療養型老人保健施設サテライトはまかぜは、平成
20年7月に済生会病院の療養病床のうち29床を転換して開設されたもの
で、経管栄養を必要とするなど重度の要介護者を受け入れている。このサテ
ライトはまかぜが、今年度介護医療院への転換を予定している。

介護医療院とは、平成30年度に新たに創設された「日常的な医学管理が
必要な重介護者の受入れ」や「看取り・ターミナル」等の機能と、「生活施設」
としての機能を兼ね備えた施設である。介護医療院には、介護療養病床相当
のサービスであるⅠ型と、老人保健施設相当以上のサービスのⅡ型があるが、
サテライトはまかぜが転換するのはⅠ型である。

【法 人】 より重症者を受け入れられるよう医師・看護師の配置を充実させ、終末期
の方や看取りにも対応していきたい。喀痰吸引に対応できるよう夜勤の看護
師も配置予定である。令和元年9月1日から現在の定員と同数の29人で「鳥
取県済生会介護医療院なでしこ境港」としてスタートする予定である…

【会 長】 ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】 入所に期限はあるのか。

【事務局】 期限はなく、看取りも可能である。

【会 長】 その他、ご意見、ご質問等はないか。

【委 員】（意見等なし。）

4 その他

【会 長】 それでは「4 その他」について、事務局から何かあるか。

【事務局】（なし）

【会 長】 委員の皆様からは何かあるか？

【委 員】 特になし。

5 閉 会

（会 長） それでは全ての日程が終了したので本日の会は閉会とする。

14：48 終了